

八甲田山の火山活動解説資料（平成 27 年 2 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動も観測されませんでした。
2013年4月から7月にかけて増加した、大岳山頂直下の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図2～4）

火山性地震は少ない状況で経過しました。

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺を震源とする地震は、2014 年 2 月頃に減少しました。2013 年 2 月から発生し始め、同年 4 月から 7 月中旬にかけて増加した大岳山頂直下付近の地震活動は、今期間も低調ながら継続しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5、図6）

国土地理院の広域的なGNSS¹⁾連続観測や、南荒川山、駒込深沢の八甲田山を挟むGNSS連続観測で、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成27年3月分）は平成27年4月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、弘前大学、東北大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

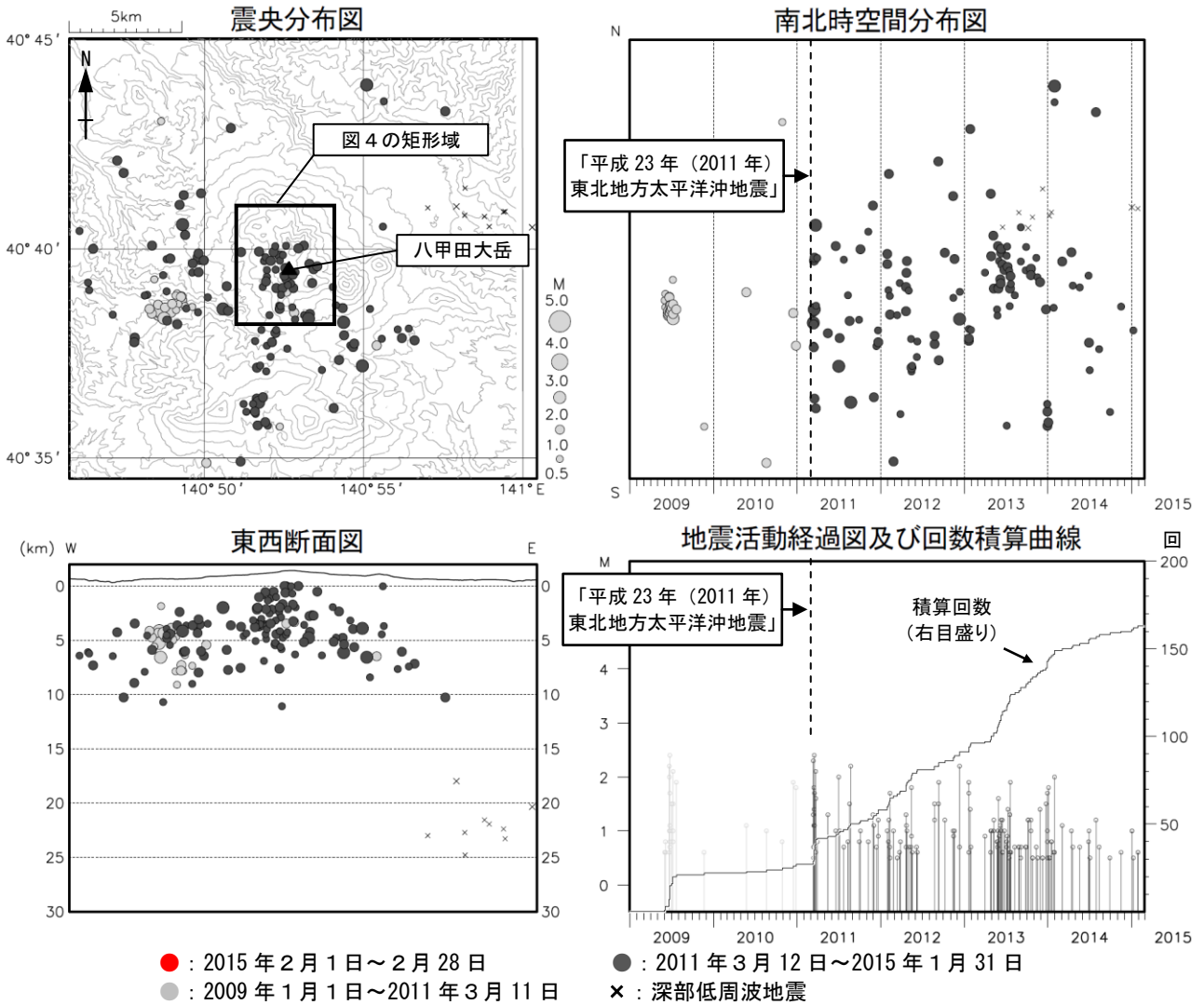


図3 八甲田山 広域地震観測網による八甲田山周辺の地震活動図（2009年1月～2015年2月）

- ・ 2013年2月14日～5月24日及び2014年12月26日以降の期間は、沖揚平観測点（青森県）が障害のため検知能力が低下しています。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を示します。
- ・ 図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。
- ・ 今期間、震源決定された地震はありませんでした。

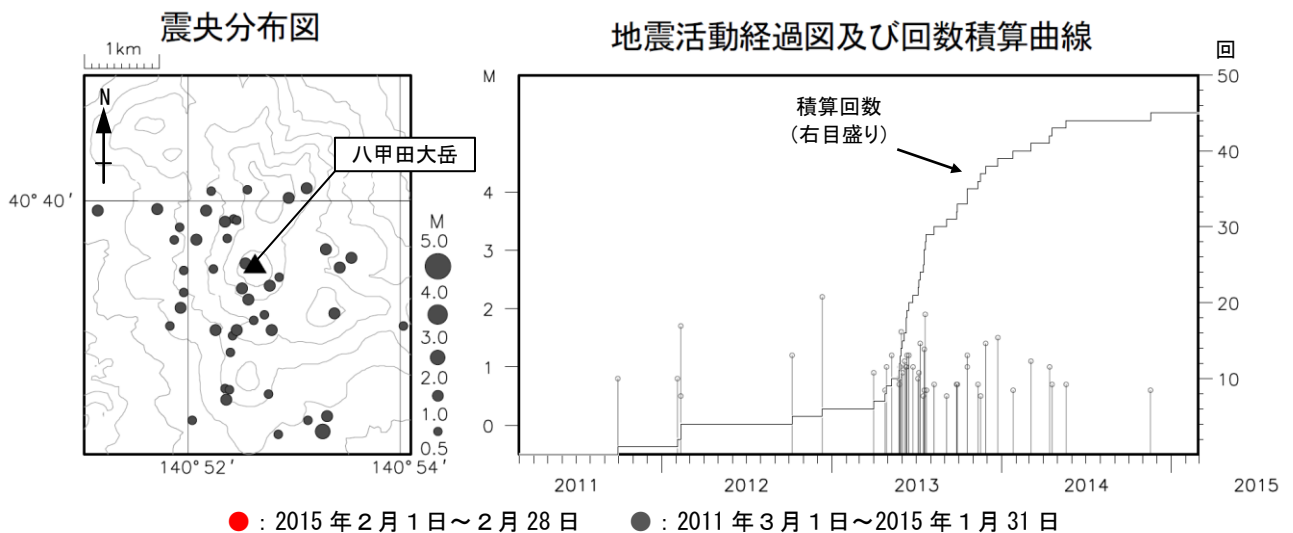


図4 八甲田山 広域地震観測網による八甲田大岳山頂付近の地震活動図（2011年3月～2015年2月）

- ・ 図3震央分布図内の小矩形域を拡大しています。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を示します。
- ・ 図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。
- ・ 今期間、震源決定された地震はありませんでした。

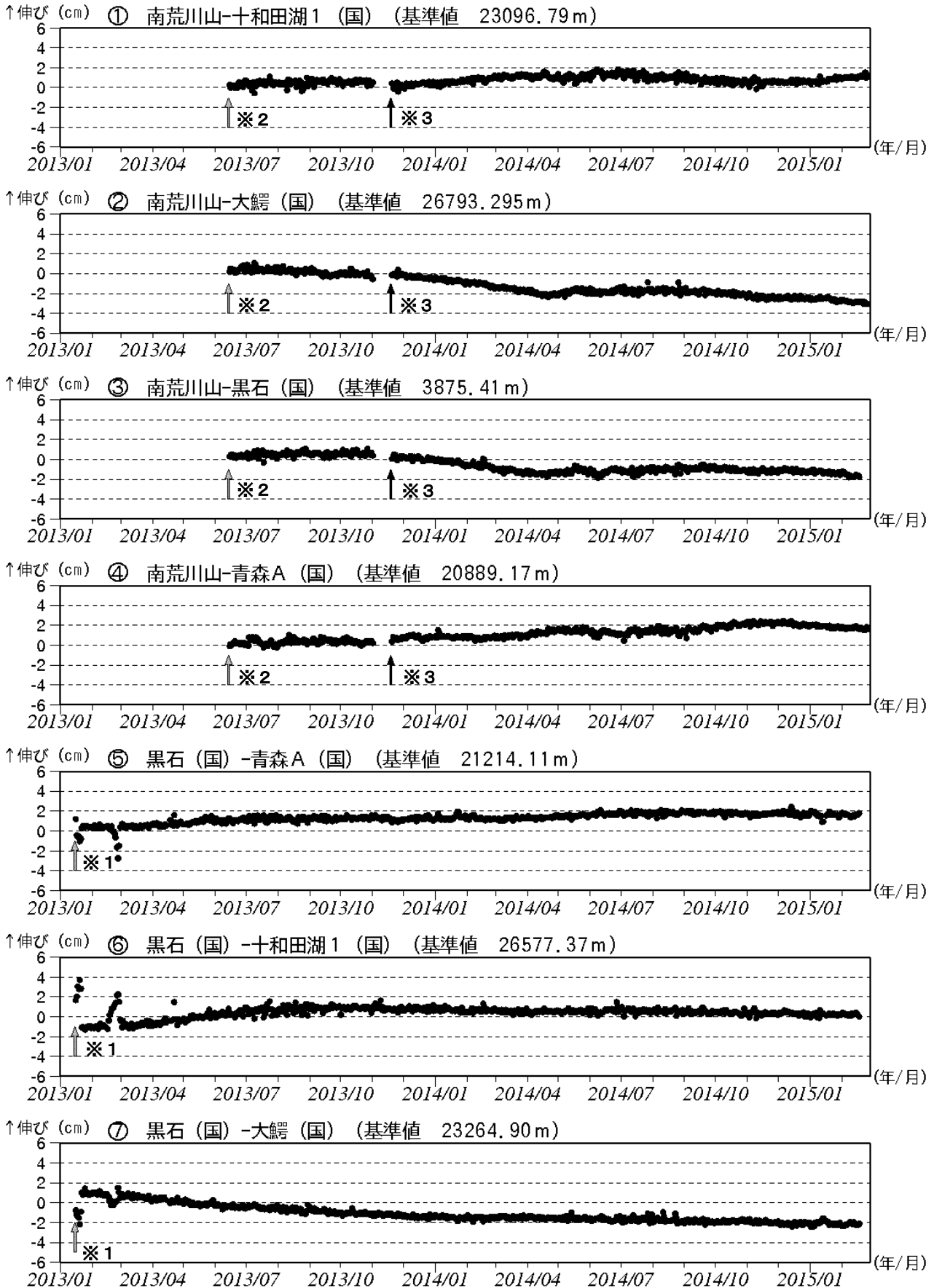


図5-① 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013年1月~2015年2月)

- ・①~⑦は図6のGNSS基線①~⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国)：国土地理院

※1 2013年1月16日より解析を開始しています。

※2、3 南荒川山(臨時観測点)は、2013年6月15日から11月1日まで現地収録型で運用していましたが、機器の移設・更新を行い11月19日からは常時観測で運用しています。図は基準値を補正して接続しています。

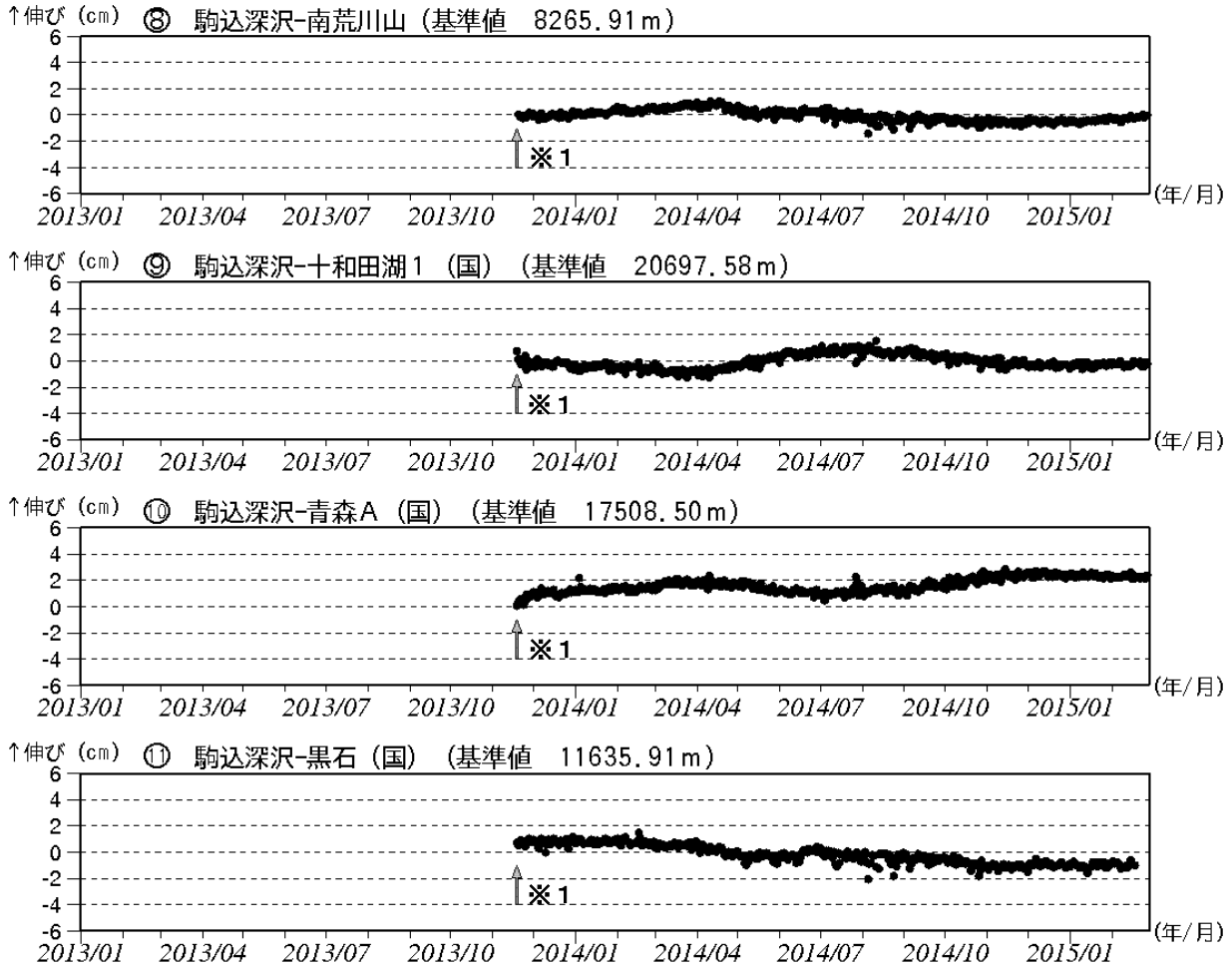


図5-② 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013年1月～2015年2月)

- ・⑧～⑪は図6のGNSS基線⑧～⑪に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国)：国土地理院

※1 駒込深沢観測点は2013年11月18日から解析を開始しました。

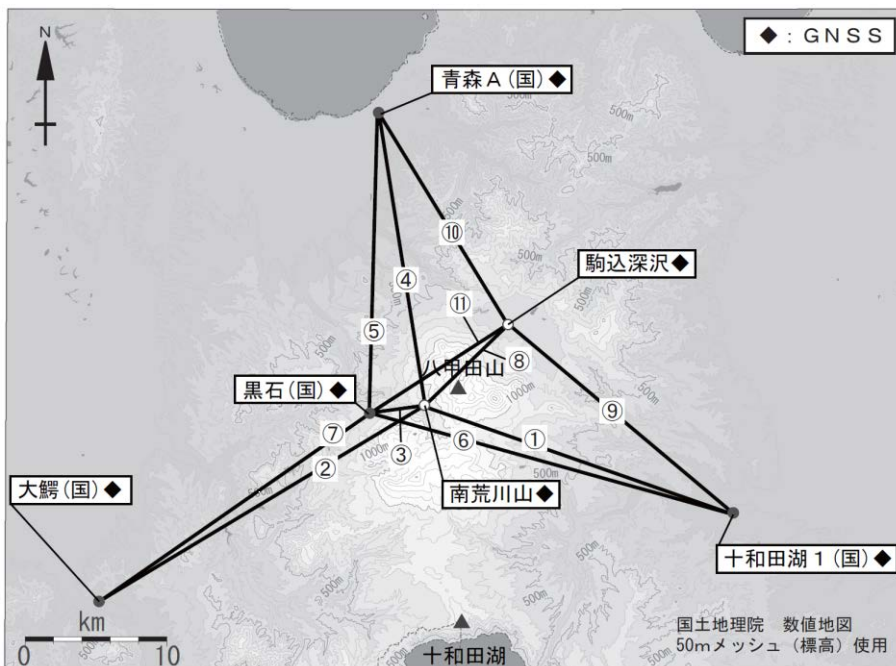


図6 八甲田山 GNSS 観測点配置図

- ・小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院